

気象関係者にも使っていただいている。共同利用研究計画は前・後期の二回全国の大学・研究機関から公募され応募されたものについて当センター運営委員会で審査・採択されている。現在20余課題が採択され実施に移されている。またこの成果を公表するシンポジウムを隔年で開催することになり、既に第1回が昭和63年3月に開催されている。

このレーダーが総勢5人の教官と2人のメーカー派遣技術者で24時間連続に動いていることを聞いて驚かれる方も多い。外国の施設なら優に50人位居てもよい規模である。しかし、レーダーは無人でも動くようになっているからこの点はなんら問題ない。だが、観測データの解析や論文を書くこと(?!)迄は当然自動化されていないから、多量の磁気テープを前に私達がいつも消化不良のような状態である感は否めない。

私達はこれ迄の3年半程の間に50編位の論文を国際誌に投稿している。しかし残念ながらその多くは得られた観測結果をいわば生の材料に近いまま提示しているにすぎない。理論につなげる“解析”(理論を検証するための材料の加工といえよいか)がまだ余りに手薄である。例えば重力波の活動度をどう定量化するのか、あるいは大気潮汐波の振幅・位相をどう定義するのかといった基本的なパラメタリゼーションの手法を確立することが今私達に強く求められている。

私達は将来も当分の間、MUレーダーを駆って進んでいくことになるだろう。しかしその先の将来を語るときにはもはや気象学とか超高層物理学といった古い枠組

にとらわれてはいけないと考える。

今、赤道大気が国際的に多くの研究者の熱い視線を浴びていることは周知のことであろう。特にインドネシア地域は世界の大循環の中心といってよい。私達もいまここに注目し地上より超高層迄の大気を一挙に観測しうる世界最大規模のレーダー(“赤道レーダー”と呼んでいる)を建設しようと考えている。これにより正に大気をひとつの連続体として捉えることができよう。またこの経度には大型レーダーが南北に連なっており緯度変化を見るのに最適である。更に将来これを核に“赤道大気国際研究センター”を作ったらどうかという夢のような構想も持ち上がっている。

私達はこれからも“自然を測り自然に学ぶ”というこれまでのスタンスをかたくなに持ち続けたいと考えている。しかしレーダー大気科学は余りに幼い学問である。様々な専門分野の研究者が多様な係りを持ちうる余地は極めて多いと思われる。特に元気な若手研究者の参加が強く待たれている。

“ボリューム通番”が近く1600を超える。MUレーダー観測データは全て通し番号を付した磁気テープ(6250 BPI)に記録・保存されている。その総数がいよいよ1600巻を越えるというわけである。完成後3年半になって漸くMUレーダーの運用も軌道に乗ったといえる。この数字にひっかけて当日は研究室の仲間とささやかな祝杯を挙げたいと考えている。これが将来の大飛躍の重要な“マイルストーン”となることを願いつつ……。

日本気象学会昭和63年度秋季大会参加申込みおよび参加費等の送金について

日本気象学会昭和63年度秋季大会事務局

昭和63年10月26~28日に仙台において開催される、日本気象学会秋季大会への参加申込みおよび参加費、懇親会費の納入は、会場受付における混雑を防止するため、**原則として郵便振替による事前申込み(送金)**とすることにしましたので、趣旨ご理解の上、下記によりお申し込みくださるよう会員各位のご協力をお願いします。

記

申込方法 必ず7月号に挿入してある**払込用紙**を使用し、必要事項を記入(裏面の通信欄もお忘れなく)の上、最寄りの郵便局窓口にお払い込む

こと(払込料金は不要)。

払込期限 昭和63年10月7日(以後の払い込みは行き違いの原因になるのでご遠慮願います)。

受領証 郵便窓口で発行する「郵便振替払込金受領証」は大会当日受付に提示していただくので、大切に保存し、各自必ず持参のこと。

大会参加費	会 員	1,000円
	学生会員	500円
	一 般	1,500円
	懇親会費	3,000円